



校長室だより 7月

2020(令和2)年7月1日
大阪市立堀江小学校
校長 藤原 和彦



令和2年度の入学式を実施しました

6月20日(土)に、約2か月半遅れての入学式を行いました。感染症対策で、短時間で半数ずつ2回に分けての実施でした。他にも、2年生の歓迎の言葉をビデオ映像で流したり、いつもご来賓としてお越しいただいている地域の皆さまにも出席をご辞退いただいたりするなど、例年に比べて規模は縮小しましたが、我々教職員が、1年生を迎える喜びはいつもと同じ、いやそれ以上でした。子どもたちにとっては、一生に一度の小学校の入学式です。4月に中止となって以来、何とか実施したいと願っていましたが、桜から紫陽花の絵に変わった入学式の立て看板を見て、やっと節目の行事ができたことを嬉しく思いました。

学校が、これからも様々な行事を行っていくことには、きっと困難が付きまとうでしょう。時には、実施の効果と感染のリスクを比較した結果、やむなく中止という苦渋の決断をしなければならない場合があるかも知れません。しかし、今後も「安全」というキーワードを大切にして、工夫しながら取り組んでいきたいと思ひます。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

これからの教育を支えるICTとは…

新型コロナウイルスによる臨時休業によって、遠隔授業などのオンライン教育が随分と話題になりました。大阪市でも、授業の動画配信や会議アプリのTeams(チームズ)を使った双方向通信の取り組みを始め、本校でも、新型コロナウイルス感染症の第2波による再度の臨時休業に備えて、Teamsの運用を順次開始しているところです。

大阪市教育局では、文部科学省のGIGA(ギガ)スクール構想を受けて「大阪市学校教育ICTビジョン」を今年の3月に策定しました。そこでは、「ICT機器を活用しながら知識理解の質を高め、協同学習や個別学習の充実を図り、主体的に学び、自らの考え方を伝えとともに、他者の考えを理解し、多様な人と協働して問題を解決できる子どもを育てること」を目指しています。つまり、ICT機器を使うことが目的ではなく、スマートフォンやタブレット端末を鉛筆や消しゴムと同じように文房具として使いこなしながら、より質の高い学びをすることが目的なのです。

また、ICTの活用は、今回のような非常時に、子どもの心に寄り添うことにもつながります。あるアンケートで、臨時休業中にオンライン学習でうれしかったことに、「担任の先生の顔が見られたこと」という子どもの答えがあったそうです。堀江小学校も、ICTのつながる力を活かしながら、子どもたちにとって安心できる学校になっていきたいと思ひています。

今後、ICTを活用した教育活動はますます多様化していくことが予想されます。家庭で使う通信端末を確保することや、通信にかかる費用をご家庭で負担していただくことなどの課題はありますが、すべての条件が揃うまで待つのではなく、できることからやってみようというチャレンジ精神で、これからの教育に取り組んでいきたいと考えています。先日お配りしたTeamsのID登録ができるご家庭は、この機会にぜひご登録をお願いいたします。(ご質問があれば学校までお問合せください。)

※ICT(Information and Communication Technology)=情報通信技術

